

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立厳木中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりも改善した項目もあり、教師の努力と知恵が生かされた活動を行うことができた。また、今年度もコロナ禍で中止や規模縮小を余儀なくされたが、形を変えながらも多くの取組を実施することができてよかった。 ・次年度も生徒たちの学力向上を目指した指導方法の工夫や悩みを持つ生徒への対応に力を入れた取組を行っていききたい。 ・地域と連携した体験活動については一定の成果が出ており、今後も継続するとともに、コロナ禍の5類引き下げに伴い、地域に開放された学校づくりを進めていきたい。
2 学校教育目標	地域に根つき、笑顔と感動があふれる厳木中学校～主体的、協働的に取り組む生徒の育成～
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に学ぶ魅力ある授業を展開し、学習意欲を高める。 ・生徒に活躍の場を持たせ、承認する場面を増やし、自己肯定感を高める。 ・時と場を考えさせ、生活規律を確立し、自己指導力と規範意識を高める。

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価			
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○校内研究及び校内研修の充実 ○家庭学習を充実させるための取組	○学力向上対策評価シートに示した共通実践及び成果指標を達成した教師70%以上 ○家庭学習の時間が一日1時間以上の生徒が75%以上。	・各教科とも、各単元における「課題解決に必要な力」の明確化と学習評価を踏まえた授業計画を作成し授業を実施する。また、全職員が年1回の研究授業を行うことで、授業の改善を図る。 ・Qフレンズと自学ノートの取組の推進。 ・生徒会による家庭学習を充実させるための取組。 (家庭学習に関する調査や集計発表、テスト予想問題の作成と実施など)	A	・各教科とも、校内研究計画に基づき、各単元における「課題解決に必要な力」の明確化と学習評価を踏まえた授業計画を作成し授業実践に努めることができた。また、全職員が1回ずつ研究授業を実施し、授業改善に努めた。 ・生徒会と連携して、Qフレンズと自学ノートの取組を進めることができた。また、生徒会を中心に、家庭学習に関する調査を実施して集計を発表したり、テスト予想問題の作成などの活動を計画的に取り組みたりすることで、家庭学習の推進につながった。	A	・授業力の向上のため、全職員が研究授業をされていることは大変いいことである。研究授業のクラス以外が「自習にならないように工夫されていること」にも感謝した。今後子どもたちのためにも授業力を向上させる取り組みを行ってほしい。
	○生徒の学習状況や課題の把握 ○「知識・技能」の定着を目指した取組 ○「思考・判断・表現」の向上を目指した取組	○本年度は12月に過去の県調査問題を実施することで取組の成果を計る。 成果指標 ①県正答率や到達基準を1.00としたときの本校2学年の正答率が、R4の1学年次の結果を上回る。 ②本校1学年と2学年の正答率が、到達基準やR4県正答率を上回る。	・学習状況調査やNRTなどの分析による生徒の学習状況の把握。 ・各教科における単元テストの実施。 ・QタイムとQテストの実施。 ・「思考・判断・表現」を必要とするような学習課題を設定した授業の実施。	B	・各教科とも単元テストを実施することができた。 ・QタイムとQテストの取組を計画的に実施し、基礎学力の定着に努めた。 ・各教科とも「思考・判断・表現」を必要とするような学習課題を設定した授業実践に努めた。 ・12月に過去の県調査問題を実施したが、到達基準やR4県正答率を下回る結果が多く見られた。「思考・判断・表現」に関わる内容だけでなく、問題の意味の理解や基礎・基本の定着にも大きな課題が明らかになった。今後とも授業やQテスト、家庭学習の課題等において改善のための手立てをとっていききたい。	B	・子どもたちを学力を高めるために工夫されていることが分かった。より高い学力がつかうようにがんばっていただきたい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動するなど、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおける肯定的な回答をした生徒80%以上	・道徳に関するアンケートの実施 ・道徳科の授業力向上のための資料提供 ・自分の考えを可視化できる教員の提供 ・保護者への保護者と連携したふれあい道徳の実施 ・学級通信等による道徳科の授業の紹介	A	・2月に実施した道徳に関するアンケートでは、肯定的な回答をした生徒は、1年93%、2年100%、3年100%、全校97%であった。 ・生徒たちの思いや考えを保護者に知らせるために、授業後の感想等を定期的に学級通信に掲載して配布した。	A	・教科としての道徳になり、項目をすべて実施していることが分かった。子どもたちの実態に応じさらに工夫をしていただき、道徳性を高める指導をしてほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○職員に相談しやすいと感じる生徒率90%以上。	・毎月、「いじめ・生活アンケート」を実施 ・6月と11月に担任と教育相談週間を実施 ・全職員における生徒指導の体制作り	B	・悩み事があるとき、職員に相談しやすいと答えた生徒は3年生85%、2年生79%、1年生57%、全体で73%であった。 ・各学年によってばらつきがある。もちろん各学年によって意識をしてもらいたいが、担任・副担任だけに任せるとはならず、全職員で気にかけていくことを再度確認する。	B	・学年によって、職員に相談しやすいと答えた生徒の差があるのは、子どもたちの性格もあるのはわかる。いろいろな悩みを抱える生徒も増えてきているので、生徒に寄り添った指導を今後も行ってもらいたい。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」生徒70%以上 ●「@将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒70%以上	・あらゆる学校生活の場において、生徒の様子を観察し、よいところを認める機会を多く持つ。 ・総合的な学習を中心に、全ての教科やふるさと探訪や職場体験、地元企業訪問等の郷土学習を通して郷土を愛し将来の目標に向かって自ら考える時間を確保する。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した生徒は4割であった。 ・「自分の夢や目標を持っている」について、全校で77%が肯定的な意見を持っていた。数値的には1学期と同じだが、「あてはまる」とどちらかといえはまるるに比べて、「あてはまる」と回答した生徒が、学期をうつごとに増えた。	A	・郷土学習を通して、キャリア教育に力をいれていただいているのがわかった。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●朝食摂取率95% ●「健康に良い食事をしている」生徒90%以上	・生活状況調査の実施 ・食に関する意識調査の実施	B	・朝食摂取に関しては、健康相談や教育相談の機会に担当職員から生徒へ指導を行い、食事のバランスを意識することができるようになってきた。しかし、給食の残量調査では、野菜が多く残る学年があるため、栄養指導を引き続き行う必要がある。	B	・朝食については、家庭の問題であるが、啓発活動にさらに力を入れていただけたらと思う。
	○健康意識の向上と体づくり	○体力・筋力が向上したと考える生徒が80%以上	・スポーツテストの実施 ・体育の授業前に体操運動を実施	B	・体力の向上を感じている生徒は3年生63%、2年生80%、1年生88%、全体で76%であった。 ・3学期を中心に球技のゴール型スポーツをやるので、また年度末に取れば結果は変わると思われる。また、3年生の部活動が終わってからの体力・筋力低下が著しいと考えられるので、体育の授業等意識して行っていく。	A	・部活動を引退し、3年生が体力的に落ちるのは仕方がない。1、2年生が中間評価よりも体力の向上を感じているのは学校の取組の成果である。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・週2日以上かつ部活動休業日の実施。 ・水曜日の定時退校の実施の推進 ・長期休業中に年休取得が増えるよう会議の設定を工夫する。	A	・週2日以上かつ部活動休業日の実施等具体的な取り組みについては、年間を通じて実施することができた。 ・年休取得に関しては、1年で1人平均11.6日と、10以上の取得ができているが、個人差が大きい。時間外在校等時間については、4月～1月の集計では平均45時間以上の教職員は1名、平均で28時間30分と時間外在校等時間は比較的少なかった。	A	・働き方改革をさらに進め、教職員もゆとりを持った生活ができるようお願いしたい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価			
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員80パーセント以上	・特別支援に関する研修会 ・個別の支援計画・個別の指導計画の記入についての研修会	A	・職員研修を実施した結果、全員が「生徒理解が進んだ。」と回答し、99%の職員がその後の指導に生かすことができた。」と回答した。これにより職員の特別支援教育に対する理解が深まったと考える。 ・個別の支援計画については、個別の生徒に対応することができた。 ・生徒の学力や適正、保護者の意向などにより、教育課程を柔軟にを行った。 ・全校で96%の生徒が仕事に責任をもち取り組んだと答えた。また、自分は誰かの役に立っていると感じた生徒は、全学年とも学期をうつごとに増え、3学期は90%が肯定的に答えた。3年生においては、1年生の時よりも、2年生の時よりも増え、そして3年生では91%と学年が上がるにつれて大きく向上が見られた。来年度も、学校行事や生徒会活動を通して活躍する場面を多く、自己肯定感を高めていきたい。	A	・教職員の研修内容がよく分かった。各学年にいる支援の必要な生徒に今後適切な支援を工夫して行っていただきたい。
○生徒会活動の活性化	○生徒に学校行事や生徒会活動の中で活躍の場を持たせ承認する場面を増やし、自己肯定感を高める。	○「専門部や係の仕事に責任をもち取り組むことができている」と「自分は誰かの役に立っていると思う」について肯定的な回答をした生徒70%以上	・生徒会、生徒総会、新入生対面式等の行事や専門部の活動の中で活躍する場をたくさん設ける。	A	・全学年で地域での教育活動を設定する。 1年ふるさと探訪 2年職場体験 3年ふるさと企業訪問	A	・小規模校であるため、一人ひとりの出番が多くあり責任感が強くなっていることがよくわかった。今後も、一人ひとりの活躍する場を与えて、自己肯定感を高めていただきたい。
○地域連携	○いきいきからつ子育て事業を活用した教育活動の実施。	○地域での教育活動に対する生徒満足度を80%以上		A	・各学年で設定したふるさと学習に関する生徒の満足度は1年生93%、2、3年生100%と高く、積極的に各学年とも取り組んでいた。また、3年生で11月に郷土料理であるそばの実を使ったそば打ち体験では、地域の食文化に対する理解が深まったと答えた生徒が100%であった。	A	・市の補助金を活用し、生徒の満足度の高い厳木町を知る機会を設けられており、今後も継続してほしい。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・各担当で工夫した取組ができているが、項目によっては昨年度を下回っているものも見られる。今年度の振り返りを通して次年度の改善策を全職員で創意工夫して実践していききたい。 ・コロナ感染症の5類への引き下げにとともに、地域と連携した取組を行うことができた。今後も地域に開放された学校づくりを推進するため、地域連携に力を入れた取組を行っていききたい。
----------------	---